

安倍宗任伝説(2)

藤井 実さん(東町花輪)

また『上野国史』には次のように記されている。

黒川山中の芥澤阿久澤松島氏は、奥州の安倍すえの裔なり。

安倍宗任天喜五年の春、

既に降参して、將軍頼義すえこれを召し連て上洛せられし時、

宗任が一族従類凡て七すべ百三十人、跡を慕ひて上りしに、

將軍、大勢は都に憚りはばかあるべし、供には百人過すぐべからず、東道の音信にもなれとて、

黒川山中を宛行はせられて、代々此谷を領知來れり

一説に宗任降参の後、此山中に放免せらる、

此山中もと源家の領地なればなり、

その後、宗任赦免せられて、源義家に仕えて近臣となれり、

宗任黒川山中にありし

時、故固を懷ふ情ありて、その地を奥澤・松島など名付け、又、鳥海権現を祭りて崇あがめたり、

松島・芥澤は宗任が裔すえなりと云

以來、守護不入の地と稱して、何の旗下にも不屬とある。

※『上野国史』は、新田郡世良田の茂呂権藏もろこんぞう

が、江戸時代後期の安

永三年(一七七四)に

著した歴史書

※史実は、宗任は京に送

られた後、四国伊予、

九州筑前宗像に流刑

され、一一〇八年その

地で亡くなっている。

さらに、『勢多郡東村

の民俗』には、『新田老

談記』『関八州古戦録』『上

野国史』を用いて東に伝

わる「安倍宗任伝説」を

まとめている。

康平六年(一〇六三)

安倍宗任むねとうは、源頼義に

捕へられ都へ連れられ、

八幡太郎義家の近侍とし

て召使はれて居た。

※康平六年は、平安時代

の中頃。の前年には、頼

義が阿倍貞任を討ち、

弟宗任を降伏させ「前

九年の役」が終わった。

頼義は奥州の乱を鎮めると捕虜の宗任を引立て凱旋の途についた。

※安倍宗任は、都へ連行

された後に、伊予国(愛

媛県)・筑前国(福岡県)

太宰府にと流された。

其の時、宗任の一族郎党は旧主の名残りを惜しみ、且つ頼義の見送りとしてお供をしたが其の衆

衆総て七百三十人といふ多勢であつた。

將軍頼義は上野の国へ入ると部將に命じた。

捕虜とはいえ大勢の敵

方を引連れて都へ帰るとは朝廷の憲法の制によつて憚りである。百人を越してはならない。

此の所黒川山中は源家累代の領地である。

余りし者は其所に止まるがよい。そして都と奥州の音信の中継ともなれと命じた。

こうして奥州の多くの

衆は黒川山中に止まつた。

黒保根村神梅宿題に近くに

正円寺という寺がある。

此の寺の所に神梅の砦と
いうのがある。代々愛久沢阿久沢が領した。

※現在の正円寺は永祿

(二五五八〜一五七〇)

の頃築城された深沢城二の丸跡。かつての正円寺はもつと東の地にあつた。

萩原の五覧田の砦は松島の居であつたといふ。

※五覧田の砦は、現在の関守入口にあつた。

山頂にある通称五覧田城とは異なる。

五覧田城は、戦国時代
に築城された。

愛久沢・松島は其の時

黒川山中へ止つた宗任の一族であるといふ。

※愛久沢阿久沢は栗谷川次郎

の末裔が名のつたとい
う。貞任さだとうが厨川次郎
を名のつており栗谷川

次郎との関連は不明。

※松島嶋は鳥海彌三郎の

末裔が名のつたとい
う。

※宗任の別名は安倍
鳥海三郎宗任という。

※山田郡の名は、家臣
やまだしちろういよしゆき
山田七郎平吉之の名
による

頼義は愛久沢・松島の

党に此の土地をあてがふ
ときに黒川山中は永代安
堵の地であるといった証
文を与へた。

それからといふものは守
護不入の地と称され何の旗
下にも属さなかつた。

一説に捕虜となつた宗任
は此の山中に流放された後
放免されて義家に仕えたの
である。

其の当所に在つた時、
故国を懐おもふの心が切であり
其の地を奥沢・松島などと
名付けて、又鳥海権現をも
祀つたといふ。

※鳥海権現は現在の東町
小中大平の大蒼院近く
の鳥海神社であらう。

※鳥海神社の御祭神は
鳥海三郎こと安倍宗
任である。

この伝説伝承は、伝え伝え
られて今日に至つてゐる